

東大現代文 ハンドアウト

— 第 1 回 (2000 年度 第 1 問) —

氏名：_____

ガイダンス

【東大現代文第1問の構成】

① 設問構成

Ans. 4～6問。2行の記述式が3～4問，120字記述1問，漢字。

② 問の種類

Ans. 傍線部説明，比喻説明，理由説明，語彙説明，要旨要約。理系1番は，本文をうまく利用できる問題が多い。それに対して，文系の4番はかなりの程度自分の言葉で説明しなければならない。

【目標】

③ 配点は？

Ans. 現代文 45 点，古文 20 点，漢文 15 点の合計 80 点。
99 年まで（文系だと全 7 問）と 2000 年から（文系だと全 4 問）で配点設定が変わる。

	第 1 問	第 4 問 (or 第 5 問)
～ 99 年	25 点	15 点または 20 点
2000 年～	45 点	25 点

④ 時間配分は？

Ans. 理系（100 分）：第一問（55 分），第二問（25 分），第三問（20 分）
※ 2000 年以降の時間配分は，「本文の読みに 10 分，2 行設問 8 分 × 4 + 120 字設問 13 分，合計 55 分」というイメージ。
文系（150 分）：第一問（60 分），第二問（30 分），第三問（25 分），第四問（35 分）

⑤ 合格者平均点は？



⑥ 何点取ればよいのか？

Ans. 平均点を 5 点上回ればよい。45 点中 30 点取ればベスト。取れる問題で満点を。

⑦ 共通試験は？

Ans. 記述式ができるようになると，記号式もできるようになる。

⑧ 古典がポイント

Ans. 古典はコスパが高い。勉強法は英語と一緒になので、英語が伸びてくれば、古典の勉強の仕方も分かる。古典を受講していない人は、理系教科を優先させつつも、7月から9月まで古典、10～11で漢文、などといった実行可能なペースで学習していこう。12月から共通試験の過去問が解けるように。

【講座の狙い】

- (1) 現実的な目標設定：①有限の時間で短期間に効率よく伸ばす（他教科とのバランス）②実現可能な目標点数の設定
- (2) 具体的な課題：読むマテリアル，読み方，解き方の具体的な指示。（×やっていたらできるようになる，×センス）
- (3) 一人一人へのコミットメント：個別添削・質問・面談・学習相談を徹底。（通常で習っている人は，「別日」で。）

- (1) 本文の音読×3回（3日）
→ 本文の読解力。ハンドアウトを利用し，本文の難しい箇所と演習で解いた問題をエア授業する。理解力＝説明可能性。
→ 読み直す際に，ディスコースマーカーや「のである文」など，重要箇所に印をする習慣を身につけていく。
- (2) 段落の小見出し
→ 概念的把握の力（一般化・具体化）。
- (3) 段落の要約
→ 概念的把握の力（一般化・具体化）。
- (4) 設問の書き直しと書き直し。
→ 以上を終えて本文の理解ができたなら，設問を書き直してみる。書き直して分からないところがあったら添削に持ってくる。
- (5) 以上を完璧にこなして，本文を理解できたなら，解いてない問題を解く。
- (6) 漢字
→ 語彙力を増やし，表現力，概念力，説明力を上げる。

【教材説明】

- (1) 問題集
復習用。
- (2) 漢字練習帳
- (3) 解答用紙
何度もやり直せるように，コピーして使おう。

【採点のやり方】

- (1) 提出課題：次回から添削用の設問は回収，採点講評を作成し，次回返却。
- (2) 書き直し，授業で扱わなかった問題の添削は，直接提出。月曜日と火曜日と金曜日の 16:00 から 17:20 まで 2 号館。

【質問と書き直し】

月曜日と火曜日と金曜日の 16:00 から 17:20 まで 2 号館。

【欠席者教材】

事務受付にて。

ハンドアウト

■ 初回の目標

- (1) 出題傾向と概略
- (2) 分析的・総合的な読解のやり方
- (3) 問題の解き方：基本
 - ※ 初回は，以上の３点。次回以降で，以下の重要ポイントに移る。
- (4) 問題の解き方：総合（パターン化・ツール化）
- (5) 傾向と対策

■ タイムテーブル

- ・ 10:30 第１段落と第２段落精読法解説（25 分）
- ・ 10:55 設問１解説（25 分）
- ・ 11:20 設問２解説（15 分）
- ・ 11:35 設問３解説（10 分）
- ・ 11:45 ガイダンス

■ 全段落構成

- 【１】環境とは何か：１段落～２段落
- 【２】自然とは何か：３段落～５段落
- 【３】生態系とは何か：６段落～１０段落
- 【４】あるべき環境保護：１１段落～１２段落

■ 各段落解説

▶ 1 段落：導入

- 1** l.1 「妥当性」という言葉を分かりやすく説明せよ。

Ans. そうした方がいいかどうか。

- 2** l.1 「自明のこととして前提されている」という言葉を分かりやすく説明せよ。

Ans. 「疑問の余地なし」ということ。絶対に正しいこととされている、ということ。

具体例

Ans. 裁判において、法を守ることの妥当性は自明のこととして前提されている。

- 3** l.2 「これ」は何を指すか。

Ans. 「環境の保護」を指す。一般に、指示詞はその文脈の「テーマ」を指す。

- 4** l.2 「…この表現によって同じことを意味しているわけでもない」ということを具体的に説明せよ。

Ans. ある概念を巡って論争が生じたとき、その概念についてお互いが抱いている意味が異なっているために、論争になっているということが、しばしばある。

具体例

Ans. 正義のための戦争。宗教戦争など。両陣営が意味する「正義」や「神」の概念が異なるために争いが生じている。

これと同様に、「環境」ということで抱いている意味が人によって異なるために、「環境保護運動」は迷走している、というのがこの文章の最大のテーマ。

ここが押さえられないと、問5は解けない。

- 5** l.3 「実践」という言葉を分かりやすく説明せよ。

Ans. 「行為」のこと。「どうすべきか」ということ。

具体例

Ans. 「実践で学ぶ」とは、理論として「頭の中」で学ぶのではなく、「実際にやってみて学ぶ」ということを意味する。

具体例

Ans. 自転車の乗り方や英作文の書き方は、実践で学ぶしかない。

具体例

Ans. 「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」というタイトルから、どのような文章が推測してみよう。

Ans. アクティブ・ラーニングを学校教育に取り入れる際に、「概念的・教育的・倫理的にどのような問題点があるか」ということではなく、「それを実際に授業に取り入れる際にどのような問題が生じるか」ということが論じられるであろう。

アクティブ・ラーニングの理論的矛盾などではなく、指名はどうするか、web 環境やパソコンはどうすればよいか、などの現場の具体的な問題を「実践的課題」ということが多い。

6 1.3 「実践上の重大な差異」という言葉を分かりやすく説明せよ。

Ans. 「環境の保護」を実際に行う上で大きな違いがでてくるとのこと。つまり、「環境保護をどのように行うべきなのか」ということに、大きな違いが出てくるとのこと。具体的には、「環境の保護は、どうすれば効果的なのか」「どこまで守るべきなのか」などといったことを意味する。

具体例

Ans. 「善い生き方」とは何か。これは、「何を善いと思うか」によって、生き方は変わってくる。「善い」ということで「倫理的な善」を意味するとしても、その人が持つ倫理観によっても変わってくる。日本人とイスラムの倫理観を持つ民族とでは、生き方の内実は相当変わってくるのではない。

これは「善」という概念の意味が、実践上の重大な差異になっている好例である。

具体例

Ans. 「いい飲み屋を紹介してくれ」。これは、その人の「いい」という言葉の意味・定義によって、変わってくる。味、雰囲気、コスパ、場所…。

ポイント

「環境保護」というときに、「環境」ということで何を意味しているかによって、「環境保護」を具体的にどうすべきかということが変わってくるとのこと。

このように、まず言葉の意味を確定していくアプローチは、アカデミックな文章に典型的に見られる方法である。この具体例を作ってみよう。

具体例

Ans. 「人種差別を無くそう!」というスローガンを実践していく場合など。

Ans. 何を持って差別とするのか。人種、宗教、民族、性差、顔、貧富、どこまで含めるのか。

ポイント

以上の様に精読できなければ、設問に答えることはできない。これからの5回は、このハンドアウトを利用して、徹底的に精読の訓練を行い、自力でこのような作業ができるように訓練していこう。

▶ **2 段落：自然と生態系との関係**

7 1.4 「自然」と「生態系」が、なぜ出てくるのか。

Ans. 環境、自然、生態系は、概念が混同されがちなので、比較しながら、概念を解きほぐしていく作業。

あるものを説明するときに、それと似たものを持ってきてそれとの違いで説明していくという、スタンダードなやり方。自分の友達の顔を、知らない人に説明してみよう。お互いに知っている人の違いで説明するとうまくいきそう。

具体例

Ans. イタリア人にラーメンとは何かを教える。「愛とは何か」を考える。

Ans. 「ラーメンとパスタ」の違い。「愛」と「恋」の違い。

8 L6 「これらの概念」とは何を指すか。

Ans. 環境, 自然, 生態系

9 L6 「簡単な分析」の狙いは何か。

Ans. これらの類似概念との差異を明らかにすることによって, 環境とは何かをということを理解する目的。

これにより, 「環境」の意味が確定できれば, 「環境の保護」の意味も確定する。そうすれば, 「環境の保護」ということで, 「具体的にどうすべきなのか」が確定する, ということ。

ポイント 一段落を受けて, 「環境」とは何か, その意味を, 以下の文章で考えていきたい。そこで, 考察の端緒として, 「自然」や「生態系」といった類似概念との比較で, 「環境」概念の意味を探っていこうではないか, という戦略。

▶ 3 段落：近代の自然科学的自然観

ポイント 設問 (一) の解説を通じて, 段落の内容を説明していく。

【設問 (1)】

① 記述答案で最も大切なこと。

Ans. 答案の自立性

② 答案の自立性とは？

Ans. 本文を読んでいない人に自分の答案が伝わるだろうか。本文を読んだ人にしか伝わらない答案は, 採点官との共通理解に甘えた答案であり, 説明不足と言える。

③ 答案の自立性のチェックポイント

Ans.

- (1) 指示語がそのままになっていないか。
- (2) 抽象的な語が説明されないままになっていないか。
- (3) 比喩表現がそのままになっていないか。
- (4) 筆者特有の言い方がそのままになっていないか (括弧でくくってあったりする語)。

※以上を説明することを, 本講義では「具体化」と呼ぶことにする。

④ 下線部説明問題のタイプは？

Ans.

- 下線部説明の問題は
- (1) 下線部の前
 - (2) 下線部の後
 - (3) (1) と (2) の混合
 - (4) 自分言葉で説明, の 4 タイプ。

⑤ 設問 (一) のタイプは？

Ans. 本問は、傍線部 (ア) の前。

⑥ 下線部説明問題の定石は？

Ans.

{	(1) 構文 (答案と下線部をそろえる)
	(2) 分析 (何を説明すべきか)
	(3) 具体化 (答案として独立するまで説明する)
	(4) 代入

⑦ 構文

Ans. 問に対する答え方を整える作業である。要は、「どういうことか説明せよ」という設問であれば、「…ということ」と答える、などである。

例えば、「あなたの好きな食べものは何ですか」という問に対して、「はい、そうですね。」や「君こそ何が好きなのだ」と答えても、コミュニケーションにならない。それと同様に、記述問題では、設問にストレートに答えることが大事であり、出発点である。

また、やたら冗長になってしまっている答案や、極端に字数が短かったりする答案は、この要件を満たしていないことが多い。まずは、ここを冷静に押さえたい。

さて、本問は「…とはどういうことか、説明せよ」という設問なので、「…は～だということ」と答える。理由が聞かれていれば「…だから」とする、などなど、設問の指示に応じて、全体の構文を整えること。

⑧ 分析

Ans. 「説明せよ」とある場合、何を説明すべきなのか、そのポイントを押さえる作業である。

一般論としては、下線部を分節化し、それぞれを具体化していく。

設問 (一) では、「すべての事象は」、「等しく」、「自然的である」、この三要素の具体化が必要となろう。もちろん、「で」、「ある」の説明は不要だろう。また、「美しい芸術」などの表現のように「冗語」になっている場合は、まとめて説明すればよい。そのあたりは臨機応変にやっ払いこう。

⑨ 代入

Ans. 以上の作業が終わり答案が完成したら、最後にそれを傍線部に代入してみて意味が通るかを確認しよう。これが、最終作業となる。そこで違和感がなければ、答案としての方向性はあっていそうだと、いうことになる。

以上のプロセスを自動的に踏めるように、徹底的にエア授業を行って身につけて欲しい。では、以下具体的な説明をしていこう。

10 「すべての事象は」

Ans. 「すべて」といっても、具体的に何をさして「すべて」としているのか。例えば「すべては国のために」という文の「すべて」は何を指すのだろうか。指示対象が曖昧なので、これを具体化する作業が必要となる。

そこで、本文に指示対象を探してみよう。どこで言い換えがあるかを探す場合は、手がかりとなる言葉をヒントに目星をつけながら探さないと時間がなくなってしまう。そこで、反義語に注目するというやり方を身につけたい。「すべて」の反義語は「一部」である。これに着目すれば、8行目の「人間もちろん自然の一部であるから、人為と自然の対立はない」が、「すべて」の言い換えとなっていることに気がつく。後は、これを分かりやすく説明するだけ。

「人間もちろん自然の一部であるから、人為と自然の対立はない」とは、要するに、「すべて」＝「自然＋人為」ということ。これをきちんと説明すれば、「人間を含む自然界のすべての事象」、くらいになるだろう。

11 「等しく」

Ans. 「異なる」「同じ」「似ている」などの二項述語には常に注意を払いたい。「何と何」が「異なる」のか、「同じ」なのか、「似ている」のか、これを押さえながら読むこと。

では、傍線部の「等しく」は「何と何が等しい」のだろうか。9行目の「自然のある状態とかある段階に特に価値があるとする理由もない」が該当箇所となる。「任意のどの状態を二つとっても区別がない」ということから、要は、「自然がどういう状態や段階でも」ということになるだろう。模範解答では「自然がいかなる状態・段階にあっても」と表現されている。

ただし、本問では、「すべて…等しく」をひとまとまりと考えて、「すべて」の説明に含めてしまってもよい。

12 「それ自体としては価値や目的を含まず」

Ans. 価値の辞書的意味を確認しておこう。物事の役に立つ性質・程度のこと。また、個人の好悪とは無関係に、誰もが「よい」として承認すべき普遍的な意味。真・善・美など。

13 簡単に説明すると…

Ans. この文脈に合わせて考えれば、「価値」を含むとは、「価値があること」、つまり「守るべきもの、失うと困るもの」ということである。分かりやすく言えば、「AよりBを選ぶ根拠」があるということ
よって、自然が価値を含んでいるとすれば、自然の二つの状態に対しては、優劣をハッキリ決めることができるということになる（できないというのが本文の趣旨）。

具体例

Ans. レストランAとレストランBのどちらを選ぶか。

ランチ	A	B
値段	1000円	1500円
味	うまい	まずい
量	多い	少ない

具体例

Ans. ある湖で、「外来種のブラックバスが在来種を駆逐してしまった状態」と、「在来種を含む多様な生物が生息している状態」とでは、どちらがよいと言えるか？

14 「自然的である」

Ans. まず、ここで言われている「自然」とはどういう意味なのかを考えよう。「自然」というものの一般的な意味ではなく、この文脈での意味を考えるわけであるから、何らかの立場に立つ自然の概念が話題になっていると考える。

そうすると、7行目の「近代の自然科学的な見方」の「見方」が大きなヒントになることに気がつくだろう。傍線部は、近代科学が抱いていた「自然」の概念のことを指しているわけである。傍線部で言われている「自然」は、この「近代の自然科学的な見方」を意味していることに気がついたかどうかポイントであった。

ここが分かれば、7行目の「まず自然は、近代の自然科学的な見方からいえば、それ自体としては価値や目的を含まず、因果的・機械論的に把握される世界である」を具体化（分かりやすく説明）すればよい。具体化とは「本文を読んでいない人にも分かるくらい丁寧に説明すること」であった。

15 「因果的・機械論的に把握される世界」とはということか。

Ans. まず、「因果的」や「機械論的」という言葉は、常識として知っておかなければならない。この点を説明しておこう。

16 「把握される世界」

Ans. 「把握される世界」は「世界観」のこと。キリスト教などの宗教やギリシャ神話の世界観との対比で考えると分かりやすい。世界はどう成り立っているのか、世界の仕組みはどのようなものなのか、それを体系的に説明するのが世界観である。科学であろうと神話であろうと、正しいかどうかは置くとしても、「体系性」は満たしている。

17 因果的

Ans. 「因果」とは「原因と結果」のこと。「因果的に把握される世界」とは、世界の仕組みを「物質の原因と結果の連鎖」として把握する世界のことを言う。「決定論的」とも言う。

簡単に言うと、皆さんが物理で勉強している現象の捉え方のことである（ニュートン力学）。

具体例

Ans. ある物体の運動を考えると、初速度と時間の関数で、数秒後の位置が決定される。

具体例

Ans. 肺がんの原因は、喫煙である。

具体例

Ans. 窓ガラスに石を投げたら割れた。

具体例

Ans. ビリヤードモデル。

18 「今あなたがここに座っているということ」はどう説明できるか？

Ans. 例えば、すべては物理現象（刺激、脳）としてすべて決まっていると考えれば、因果的・決定論的説明となる。自分の意志でここにいると考えるなら、自由意志を認める考え方である。なぜその意志が生じたのかと問うならば、「大学に合格するため」のように「目的」を挙げる説明となる。これは、「目的論的な説明」というものである。

一般に、物事の説明は、すべて因果的に説明できるとは限らない。事象の「目的」を挙げる説明もあり得る。

19 機械論 mechanism

Ans. 「機械」は英訳すれば machine である。そして mechanics と言えば「力学」を意味する。ここから、「機械論的世界観 mechanism」とは、「物理学で捉えられる物質の世界」のことを意味していることが分かる。これは 9 行目の「自然のある状態とかある段階に特に価値があるとする理由もない」とも言い換えられている。

「機械論」とは要するに、「すべての事象は因果的に捉えられる」とする考え方のことを言う。

20 機械論 mechanism の辞書的意味

Ans. あらゆる現象を機械的運動に還元して説明しようとする立場、およびこの考えに立つ世界観。

時計をモデルに、外から与えられる力によって法則に従って動く部分の集合として自然を捉えたデカルトの思想が典型的。

自然を構成する各要素（時計内部のいくつかの歯車をイメージして欲しい）が必然的な変化・運動に従い運行すると考えるとき、またその必然的な変化・運行を支配する法則が存在することも前提として要請される。

21 目的論

Ans. 歴史や自然的現象も、何らかの目的によって規定され、導かれるとする説。神の摂理をイメージすると分かりやすい。）

22 この世界に悪があるのはなぜか？

Ans. 「これまでの歴史を遡って、その悪が生じた原因を考えるのであれば、それは「因果的」な説明である。

それに対して、「この悪は、より大きな善を達成するための、神から与えられた試練である」と考えれば、「より大きな善」を目的としてあげる「目的論的」な説明となる。

23 因果的・機械論的に把握される世界

Ans. 以上より、「因果的・機械論的に把握される世界」とは、すべてが因果的に生じる連続的な世界、よって、「状態によって価値の差がない（価値が内在しない）」ということだと推測分かる。

24 あり得べき誤解

Ans. 「価値が内在しない」とは、「自然に価値はない」という意味ではない。そうではなくて、「自然は価値を含まない」、よって「任意の自然の状態には価値の差がない」ということである。具体的には、「自然の状態や段階の間に価値の違いない、つまりどういう自然を選ぶべきなのか、という価値は自然の側には含まれていない、だから人間の側がその価値選択を行う」という意味。

「自然の側からどの状態を守るべきかが決まるのではなく、我々がその価値を決める」、という意味

で、自然には「価値がない」という意味であって、「自然は価値がないから守るに値しない」という意味ではないことに注意したい。

25 代入

Ans. 以上、説明したことを本文に代入してみよう。違和感はないか。

解答 人間を含め、自然界のすべての事物や現象は価値を含まず、自然がいかなる状態・段階にあっても、それらの間に価値の差はないということ。(64 字) (鉄緑会)

解答 人間の行為を含む、自然のすべての事象は因果連鎖の結果として生じるのであり、自然の望ましい状態を選ぶ価値は自然の側にはないということ。(66 字) (矢野)

解答

解答

【採点基準】

【6 点】

(1) 「自然的である」……ここでは「価値」の非内在性について【3 点】

(2) 「等しく」……状態・段階としては異なっても、価値面ではその非内在性ということで差がない【3 点】

※ (部分点) 状態・段階について、「人為」が加わっているか否かだけに限定的な答案 (1 点)

▶ **4 段落：環境問題における自然の実質的な意味**

10 l.6 実質の意味

Ans. 空虚でない，ということ。内容のある意味，空虚でない意味のこと。

具体例

Ans. 人間関係に悩む人に対して、「全ての人を愛せ」という助言。

具体例

Ans. 成績が低迷している生徒に対して、「目の開いているときは勉強しろ」という助言。

11 l.11 広義の自然

Ans. 「広義の」とは、「広い意味」ということ。要するに、「広い意味での自然」ということ。

具体例

Ans. 「ラーメン」と「つけ麺」の例。広義の「ラーメン」に「つけ麺」は入るが、狭義の「ラーメン」には「つけ麺」は入らない。他にも、「ナポリタン」は「パスタ」と言えるか、など。

12 l.11 人為

Ans. 人が行うこと。人の「行為」のこと。人間の手が加わったものを「人為」と言う。

13 l.12 この人為による改変をどれだけ受けているかによって

Ans. 「人間の手がどれだけ加わっているか」「人間がどれだけ自然を変えているか」ということ。

14 l.12 価値評価

Ans. こっちが価値があるよ、あっちは価値ないよ、という風に見定めること。要するに、「善し悪しを決める」こと。

15 l.12 自然の価値評価をする

Ans. 設問(一)を参照のこと。自然の状態の「良い悪い」「望ましい、望ましくない」「べき、べきでない」などの評価を下すこと。

16 l.12 この人為による改変をどれだけ受けているかによって自然の価値評価をする

Ans. 「人間が自然を変えていなければいけないほどよい」ということ。

17 l.15 局地的なものにとどまる

Ans. 「限られた場所にしか当てはならない」ということ。

▶ **5 段落：自然のまとめ**

【設問(2)】

1 記述答案で最も大切なこと。

Ans. 答案の自立性

2 答案の自立性とは？

Ans. 本文を読んでいない人に自分の答案が伝わるだろうか。本文を読んだ人にしか伝わらない答案は、採点官との共通理解に甘えた答案であり、説明不足なので、極めて評価は低い。

3 答案の自立性のチェックポイント

Ans.

- (1) 指示語がそのままになっていないか。
- (2) 抽象的な語が説明されないままになっていないか。
- (3) 比喩表現がそのままになっていないか。
- (4) 筆者特有の言い方がそのままになっていないか（括弧でくくってあったりする語）。

※以上を説明することを、本講義では「具体化」と呼ぶことにする。

④ 下線部説明問題のタイプは？

Ans.

下線部説明の問題は

{	(1) 下線部の前
	(2) 下線部の後
	(3) (1) と (2) の混合
	(4) 自分言葉で説明、の 4 タイプ。

⑤ 設問 (二) のタイプは？

Ans. 本問は、傍線部 (イ) の前。

⑥ 下線部説明問題の定石は？

Ans.

{	(1) 構文 (答案と下線部をそろえる)
	(2) 分析 (何を説明すべきか)
	(3) 具体化 (答案として独立するまで説明する)
	(4) 代入

⑦ 構文

Ans. 問に対する答え方を整える作業である。設問の指示に応じて、全体の構文を整えること。

⑧ 分析

Ans. 「説明せよ」とある場合、何を説明すべきなのか、そのポイントを押さえる作業である。

⑨ 代入

Ans. 以上の作業が終わったら、それを傍線部に代入してみて意味が通るか、確認する。最終作業である。

⑩ 構文

Ans. 本問で学習して欲しい最大のポイントは、「主語を補う」ことである。自分の解答が、「『自然は』…だということ」となっているか、チェックしてみよう。

ポイント 下線部説明問題は、傍線が文の一部に引かれている場合、傍線部以外にまず着目することが大切。主語は何か、代名詞が含まれていないか、など。

このように、文の一部に傍線が引いてあったら、傍線部以外の箇所を見て、主語などを補う。傍線部以外の箇所に指示代名詞が含まれていてその具体化が答案作成のポイントになる場合もある。

こういった技法をまとめたプリントを配布するので、安心して欲しい。

11 分析

Ans. 「元来は」、「(自然は) 没価値的な概念であり」、「人間との関連付けによって」、「初めて」、「守るべき価値を付与される」。

以上の分析を元に、これらを具体化する。

12 「元来」

Ans. 語彙力を問う問題。「本来」「もともと」という意味。

13 没価値

Ans. 「価値を持たない」「価値のない」という意味。(「没」：……がない)

具体例

Ans. 没個性的＝「個性がないこと」。「非倫理的と没倫理的」。前者は倫理に反する行い、後者はそもそも倫理がない、ということ。

14 「自然は…没価値的な概念であり」

Ans. 「没価値的」の辞書的な意味を踏まえつつ、この文脈での意味を確定していこう。

「没価値的」の辞書的意味は、「価値がないこと」「価値を持たないこと」であった。

そしてこの文脈での意味は、先ほど解説した設問 (一) がヒントになる。「自然に価値はない」とは、この文章では「自然なんか守る必要ないよ、価値なんてないんだ」という意味ではなくて、「自然の状態や段階の間に価値の違いない」という意味であった。それが、傍線部の「没価値的＝価値がない」という意味の内実である。

ポイント このように、東大の設問はすべて関連し合っていて、その総合が設問 (五) の答えとなる構成になっている。「ある設問が前の設問を前提しているな」と気がついたらしめたもの。

15 「人間との関連付けによって」

Ans. 「関連」の「意味を具体化させるのが狙い。」「どんな関係なのか?」ということである。

傍線部の「守るべき」は 17 行目の「人間の守るべき自然」と言い換えられているので、直後に答えがありそうだと、いう見込みを持ちたい。「人為が加えられて人間が生存しやすくなった自然」とあるので、後はこれを分かりやすくするだけ。「人の手が加わって、生存しやすくなった自然」のこと。

16 「初めて」

Ans. 「…して初めて～だ」は、成立条件や前提条件を表す言い方。だから、「…ということを前提に、～となる。」「…でない、～となはらない」ということ、のように説明したい。

17 「守るべき価値を付与される」

Ans. 「価値を付与する」は、「価値があるとする」ということ。よって、「守るべき価値を付与される」とは、「守る価値があるとされること」「守るべきだとされること」。

18 誤読 1 「自然は価値がない」

Ans. 設問 (一) でも述べたが、「自然は価値がない」は語弊のある言い方。自然の状態や段階の間には価値の違いがない、つまりどういう自然を選ぶべきなのか、という価値は自然には含まれていない、だから人間の側がその価値選択を行う、という意味の「自然には価値ない」という意味であった。この文章での「価値がない」は、「価値が内在しない」という意味である。

19 誤読 2 「自然は保護すべき価値はない」

Ans. 「自然は保護すべき価値はない」という言い方は誤り。上記と同様。どういう状態の自然を守るべきなのか、それを選ぶ価値の違いが自然には内在していないということであった。

解答 もともと自然のどの状態や段階でも価値はないが、人間は、自らが改変を加えて生存しやすくした自然の状態に、それを維持すべき価値が設定されるということ。(73 字) (鉄緑会)

解答 自然そのものには、どの状態の自然を守るべしとする価値は含まれておらず、人間が手を加えて生存しやすい状態になることで、保護すべきものとなるということ。(78 字) (矢野)

解答

解答

【採点基準】

【7 点】

- (1) 「元来は没価値的な概念であり」……問(一)における、価値の非内在性について【2 点】
- (2) 「人間との関連づけによって」……ここでの「関連」とは、生存する人間にとっての快適さ・良好な自然条件【2 点】
- (3) 「守るべき価値」……ここは表面的な言い換えレベル【1 点】
- (4) 価値付与性について……元来は価値非内在的な自然に対して、人間の利己的立場から価値設定される、判断がされるという営為について【2 点】

▶ 6 段落：生態系の定義

1 6 段落～10 段落の構成

Ans. 6 段落は定義、7 段落があり得べき誤解、8 段落～10 段落が誤解であることの説明。

2 生態系の定義

Ans. 設問 (四) で解説する。

▶ 7 段落：あり得べき誤解。生態系には価値は含まれていない。

- 18 l.26 「この生態系の概念には、機械論的に把握された自然の概念とは違って、価値が含まれており、この価値が倫理規範を根拠づける、という考え方がある。」とは、どういうことか。

Ans. 分析と具体化。

- 19 l.1 この生態系の概念には

Ans. 21 行目の定義「ある地域に生殖する…包括した系」

① 機械論的に把握された自然の概念とは違って

Ans. 問 1. 価値を含まない因果的な事象系列

② 価値が含まれており

Ans. 「良い悪い」「望ましい、望ましくない」「べき、べきでない」があるということ。

③ この価値が倫理規範を根拠づける

Ans. 「A が B を根拠づける」とは、「A が B の理由となること」、「A を前提にして、B が導き出せる」ということである。。

この文脈では、生態系の「価値」、つまり「この状態が良い悪い」という価値が存在することが、「生態系を守るべし」という倫理を守るべき理由になっていること。生態系の状態に望ましく、目指すべき状態があるならば、それを守るべきだという倫理に従うべきだということになる、ということである。

具体例

Ans. 「効率性がこのシステムを根拠づけている」とは、「効率性があるから、このシステムは正しい」ということを意味している。効率性が、このシステムを維持する理由になっていることである。

④ 以上をまとめると…。

Ans. 生態系は全体として有機的に関連し合っている。だから、自分の振るまい一つで全体が壊れてしまうこともあり得る。そして全体が壊れてしまえば自分もなくなる。すると、自分が生存しようと思えば、自分だけでなく、同時に、生態系全体を守るべきだということが価値として優先されることになる。ここから、生態系の安定を維持すべき、という倫理も導き出せる、ということ。要は、自分を保存しようと思えば、勝手な振る舞いはしなくなるはず、という意味。

- 20 l.29 「このような、生態系または生物共同体の概念からの倫理規範の導出は妥当であろうか」とはどういうことか。

Ans. 26 行目の「この生態系の概念には、…根拠づける」の言い換え。生態系という概念の意味からして、「生態系を守る義務がある」という倫理にしたがうべきだということになる、ということ。

具体例

Ans. 正三角形という概念から、3つの角がそれぞれ60度というのは、調べなくても分かる。正三角形という概念や意味からして、3つの角度というものが「導出」される。

具体例

Ans. 独身者は結婚していない。

▶ **8 段落：反論1**

- 21** l.31 「生物共同体が…異なっていることである」とあるが、何がどういふ点で異なっているのか。分かりやすく説明せよ。

Ans. 権利や義務の意識を持つのは人間だけ。他の生き物はそんな概念を持ち合わせていないので、義務を課することはできない。

具体例

Ans. 税金を動物に課す。

- 22** l.31 道徳共同体

Ans. お互いに道徳を守って生きている集団。

- 23** l.31 共同体

Ans. 共同社会。人の集まり。社会の小規模版。

▶ **9 段落：反論2**

- 24** l.35 第二に、生態系の安定によって…個体ではない。種の存続のためにはしばしば…要求される。

Ans. 簡単に言えば、「みんなのために我慢してくれ。人間という種全体を守るために、お前は死んでくれ。」ということ。

- 25** l.38 人間の共同体における倫理との類比によって簡単に導出されるわけではない。

Ans. アナロジー。

具体例

Ans. 人間は悲しいときに泣く。同様に犬もそうだ。

- 26** l.38 簡単に導出されるわけではない。

Ans. 既出。「概念や意味からそうなる」ということ。

【設問 (3)】

① 記述答案で最も大切なこと。

Ans. 答案の自立性

② 答案の自立性とは？

Ans. 本文を読んでいない人に自分の答案が伝わるだろうか。本文を読んだ人にしか伝わらない答案は、採点官との共通了解に甘えた答案であり、説明不足なので、極めて評価は低い。

③ 答案の自立性のチェックポイント

Ans.

- (1) 指示語がそのままになっていないか。
- (2) 抽象的な語が説明されないままになっていないか。
- (3) 比喩表現がそのままになっていないか。
- (4) 筆者特有の言い方がそのままになっていないか（括弧でくくってあったりする語）。

※以上を説明することを、本講義では「具体化」と呼ぶことにする。

④ 下線部説明問題のタイプは？

Ans.

- 下線部説明の問題は
- (1) 下線部の前
 - (2) 下線部の後
 - (3) (1) と (2) の混合
 - (4) 自分言葉で説明、の 4 タイプ。

⑤ 設問 (三) のタイプは？

Ans. 本問は、傍線部 (ウ) の前＋自分の言葉。

⑥ 下線部説明問題の定石は？

- Ans.
- (1) 構文（答案と下線部をそろえる）
 - (2) 分析（何を説明すべきか）
 - (3) 具体化（答案として独立するまで説明する）
 - (4) 代入

⑦ 構文

Ans. 問に対する答え方を整える作業である。設問の指示に応じて、全体の構文を整えること。

⑧ 分析

Ans. 「説明せよ」とある場合、何を説明すべきなのか、そのポイントを押さえる作業である。

⑨ 代入

Ans. 以上の作業が終わったら、それを傍線部に代入してみて意味が通るか、確認する。最終作業である。

以下、分析

⑩ 個人の生命の尊重という人間社会の倫理

Ans. 人間社会では、「個々の生命を尊重する、守るべきだ」とされる。

⑪ 動物の個体に適用することが

Ans. 動物でもそうだと考えること。つまり、動物も個々の生命を守ることが一番大切だと考えること。

⑫ かってその動物種の破滅を招くというようなことも起こりうる

Ans. 動物の種全体が減ってしまう。

以上から、

⑬ 下線部は…

Ans. 「個々の動物の命を優先することで、その動物の種全体が減ってしまう」ということ。それはなぜかを説明させるのが本問の狙い。

以上から、設問は、「個々の動物の命を優先することで、その動物の種全体が減ってしまう」というのはなぜか、という問題と同値であることが分かる。

⑭ 整理すると…

Ans. 「動物の個の生命の尊重→??? →動物種全体が破滅」。

この「???」を自分の言葉で説明するのがポイント。

⑮ 理由説明問題

Ans. 「傍線部とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。」

(1) 飛躍を埋める

A → B → C の A → C が傍線部になっているパターンが多い。本文をよく読み、B の存在に注意する。理由のつながりを丁寧に辿る。また、A, A' → B というように、複数の理由が組み合わさって B という事象を生み出しているパターンなどにも注意。

(2) 理由のヒント

「だから、なぜなら」といった分かりやすい表現だけでなく、「のである」など、理由を表す表現に敏感であろう。また、「破滅」という強い言葉と対比を成す言葉を探してみよう。「安定と平衡」という言葉に丸がつけば、答えは出たようなもの！

16 「????」

Ans. 37 行目の「生態系の安定と平衡は…弱肉強食を主体とする食物連鎖によって成立している」に着目。
この「成立している」という言葉がポイント。成立条件を言う言葉なので、逆を考えると、「…しないと成立しなくなる、つまり破壊されてしまう」ということだろう。つまり、この文の言いたいことは、「食物連鎖が成り立たないと、種全体の安定と平衡は成り立たないということ」。
また、「のである文」にも着目しておきたい。

17 「食物連鎖」→「種全体の安定」

Ans. ということは、「食物連鎖が壊れる」→「種全体も壊れる」ということ。
さて、「動物の個の生命の尊重」は、「食物連鎖が壊れる」ことにつながる。よって、
「動物の個の生命の尊重→食物連鎖の消失→動物種全体が破滅」となる。
「動物の個の生命の尊重→食物連鎖の消失→動物種全体が破滅」という流れ。

解答 種の存続に大切な生態系の安定のためには、或る個体を尊重することではなく、個体同士の戦いである弱肉強食を主体とする食物連鎖が必要だから (65 字) (鉄緑会)

解答 動物において個々の生命を守ることを優先させれば、弱肉強食を主体とする食物連鎖が失われることで生態系の安定が崩れ、種の存続が危うくなるから。(69 字) (矢野)

解答

解答

【採点基準】

- (1) 「個人の生命の尊重という人間社会の倫理を動物の個体に適用すること」、つまり動物の個体の尊重に対するものとしての弱肉強食の位置づけ 【1 点】
- (2) 弱肉強食に基づく食物連鎖の成立 【2 点】
- (3) 食物連鎖に基づく生態系の安定 【3 点】
- (4) 生態系の安定に基づく種の存続 【2 点】

▶ 10 段落：

27 1.41 以上の考察は、生態系そのものに価値があるということを必ずしも含意しない。

Ans. これまでのまとめ。「自然」と同様に「生態系」という概念にも「価値」は含まれていないということが結論づけられる。

【設問 (4)】

【設問解説】

① 説明で最も大切なこと。

Ans. 答案の自立性

② 答案の自立性とは？

Ans. 本文を読んでいない人に伝わるか。自分の解答を読んでみよう。

③ 下線部説明問題のタイプは？

Ans. 下線部説明の問題は、(1) 下線部の前、(2) 下線部の後、(3) (1) と (2) の混合、(4) 自分言葉で説明、の 4 タイプ。

④ 問 4 のタイプは？

Ans. 下線部の前＋自分の説明。だが、少し離れているので難しい (21 行目)。ポイントは、対比。

⑤ 構文

Ans. 「生態系の概念には、」 「機械論的に把握された自然の概念」 「よりも豊かな内容が含まれているといえるであろう」

「…な自然に比べて、生態系は…であるということ」 くらいにまとめる。「…」が豊かな内容となる。「豊か」のニュアンスが答案で出せるかがポイント。生態系＝「自然＋ α 」ということが伝わるようにしたい。

ただし、以下の誤読に注意！

⑥ 誤読

Ans. 一番大切なのは、「…よりも豊かな内容」という問題文に引きづられて、「生態系には価値が含まれる」という決定的な誤読をしてしまうこと。下線部 (エ) 直後を見よ。

筆者の主張なのか、筆者が批判している立場なのか、そのどちらなのかを常に意識しながら読んでいこう。

⑦ 分析

Ans. 筆者の言う「自然」、「生態系」をそれぞれ具体化する。ただしその違いが分かるように、対比を意識して説明すること。後は「豊か」ニュアンスが出せるかどうか。

→ 「…な自然と比べて、生態系は～だということ」

⑧ 「自然」

Ans. 設問 (一) をまとめればよい。

7 行目の「自然は…因果的・機械論的に把握される世界」と 26 行目の「機械論的に把握された自然の概念」を分かりやすく説明するのであった。ここは「機械論」という語の意味を前提にする知識問題となっている。以下を参照。要は、「原因と結果の連鎖として把握される世界のこと」。そこに価値や目的などは含まれない、ただ物事が時間に沿って変化・展開していく世界のこと。

9 「生態系」

Ans. 以下、具体的な分析に移る。21 行目に生態系の定義が述べられていた。これを分析していこう。

10 生態系はごく単純には、「ある地域に生息する生物群集と、その生物群集に影響を与える気象、土壌、地形などの非生物的環境を包括した系」と定義される。

Ans. 「定義」という言葉に着目する。概念の説明がズバリ出ている箇所である。○をつけているか。

ただし、定義というものは汎用性を追求したものであるから、そのままでは抽象的で意味が分かりにくい。答案では具体的に説明していく必要がある。

それでは、以下で、分析と具体化をして、分かりやすく説明しよう。

11 「ある地域に生息する生物群集」

Ans. そこに住む生物

12 「その生物群集に影響を与える気象、土壌、地形などの非生物的環境を包括した」

Ans. 「その生物群集に影響を与える気象、土壌、地形などの非生物的環境」は「環境」などと一般化するとよい。

「包括した」は「すべて含む」ということ。「自然」を「個々にバラバラ」ではなく「全体として」捉える、ということ。

以上から、この箇所は要するに、「環境を含むすべてを全体として捉える」ということ。「生物だけでなく、環境をも含んだ」全体として自然を捉えたものが「生態系」である。

13 「系」の辞書的意味

Ans. 「互いに作用し合ったり関連を持ったりする多数の者からなる一纏まり（新明解）」。cf. センター試験 2015

14 「系」の概念を説明せよ。

Ans. ピンとこなかったら、英訳してみよう。

15 分かりやすく説明すると…。

Ans. 英語で言うと、「システム」である。システムだから、生態系を構成するメンバーは、個々バラバラに独立して存在するのではなく、「お互いに関連しあって」いる。全体が「つながって」いる、要は、「ネットワーク」をなしているわけである。

ここから、「個々の要素が全体として有機的に関連し合っている」様子がイメージできたか。機械論的な自然は「バラバラ」、生態系は「まとまり・つながり」、とすると分かりやすいか。

初見では難しいと思うが、東大では出題歴のある語彙なので、これからは使えるようにしたい。「有機的（関連性）」という言葉が出てくるかどうかポイント。

16 要は…。

Ans. そこに住む生物と環境全体が有機的な関連性を持っているということ。お互いにつながり合い、相互依存的な関係にあること。

具体例

Ans. トカゲのしっぽ vs 時計

前者は失われても生命は失われない。また生えてくる。後者は部品の欠損は時計の機能の消失を意味する。生命は構成要素が有機的に関連し合い、その総和に還元されない。

17 「豊かな」のニュアンス

Ans. リニアな因果関係に集約された自然は、痩せ細った自然。それよりも意味が込められているという意味において「豊か」ということ。

このニュアンスを出すために、模範解答では、自然の描写に「集約」や「還元」といった言葉を使って工夫していること注意せよ。

18 どこまで書けばよいのか？

Ans. 「系」という語の理解も問われる問題であるとしても、この文章ではどのような意味で使われているのか、その文脈的な意味を考える必要がある。

その場合、機械論的に把握された自然との対比で考えると、書くべき必要十分なポイントが見えてくる。

因果論的自然	生態系
無機的	有機的
バラバラ	関連性
部分	全体
線的	動的

これらすべての情報を盛り込むのは現実的に難しいかもしれないが、少なくとも対比を意識した答案作成はできていてほしい。

解答

全ての現象を単線的な因果関係に集約してしまう自然の概念に比べて、生態系概念は、個体と種、環境相互を有機的な関係性として、多様かつ動的に捉えていること。(75 字) (鉄緑会)

解答

自然を単なる事象の因果連鎖へと還元するのではなく、生物と環境を有機的に関連しあうものとして全体的に捉えるようとするのが、生態系の概念であるということ。(75 字) (矢野)

解答

解答

【採点基準】

- (1) 「自然」の「機械論的」側面……因果関係性【1 点】
- (2) 「生態系」の場合……相互の関係性【3 点】

【段落解説】

28 1.42 「それに価値が内在しており ... 根拠づけている」を分かりやすく説明せよ。

Ans. 問一と逆の意味であることに注意。

19 それ

Ans. 生態系の概念

20 価値が内在しており

Ans. 「生態系」という概念自体に「善いもの（よって守るべきもの）」という意味が含まれていること。

具体例

Ans. 独身者は結婚していない。

具体例

Ans. 神に完全性は含まれている。

21 その価値が ... 義務を根拠づけている

Ans. 「根拠づける」は「理由となる」ということ。生態系は善いものだから、だから守る価値があるという理由になっているということ。「…の根拠になっている」は、「そういう理由、正当化になっている」という意味。

22 例



23 「…と断定するのは難しい」と言える理由は何か。

Ans. 以下、二つの理由がある。ポイントは「それ（＝生態系）に価値が内在しており」とあるが、「どの生態系に価値があるとするか」ということが決められないということ。つまり、どの生態系を守るべきなのかが決まらない、ということ。

具体例

Ans. 「命に価値が内在している」とする。その場合でもどの命を守るかは決まらない。例えば、脳死、トロツコ問題。

24 理由 1

Ans. 「生態系の安定が望ましいとされるが…根拠はない」を分かりやすく説明できるかがポイント。

具体例

Ans. 現状の法体系に不満があるから、全てぶっ壊して、新しい秩序を作ろう。この場合、現状の秩序の安定を保つ必要はないどころか、破壊すべきものと考えられている。開拓民。荒野の開墾など。

25 理由2

Ans. 「また、生態系の安定にとって ... 判断は成立しない」を分かりやすく説明できるかがポイント。

具体例

Ans. ニューギニアの少数民族とアメリカ,

▶ 11 段落：結論

1 この段落のテーマは？

Ans. 「環境」という概念に関する、筆者の結論が語られる段落。

2 1 段落と 2 段落を思い起こそう。これまで何を論じてきたのだろうか。

Ans. 「環境」をどう保護すればよいのか、それを確定するために、「環境」という言葉の意味を確定しようとしてきた。具体的には、「自然」と「環境」という類似概念との差異の分析を通じて、それは果たされてきた。

29 l.50 環境という概念は ... ある主体を前提する。

Ans. 「主体を前提する」とは、そこに住まう生物がいて初めて意味をなす、ということ。環境とそこに住む生物は切り離せない、別々ではないということ。

自然も生態系も価値を含まないから、それを判断する主体は無関係でよい。

30 l.51 だから、環境保護は第一義的に人間のためのものである。

Ans. 「のである文」。

筆者の結論。「環境保護は第一義的には人間のためのものである。」本文一行目の「しかし、『環境の保護』が何を意味するかはそれほど明らかでない」が、明らかになった。これだけ論じて、ようやく意味の第一歩がつかめた。これが設問 (五) につながっている。

▶ 12 段落：問5

【設問 (5)】

① 要旨要約問題（設問 (四) or 設問 (五)）へのアプローチ

Ans. 「傍線部はということか。本文全体の論旨を踏まえた上で、説明せよ。」

(1) 本文冒頭を思い出せ！

まず、最初の三段落を読み直し、全体のテーマを再確認する。このタイプの問題は本文全体のテーマを踏まえないと解答できないからである。

(2) 分析

次に、いつものように傍線部を分析し、具体化すべき要素を明確化する。そしてこの具体化の作業で、本文のテーマを全体として踏まえる必要があったり、他の設問で答えた内容が必要になったりしててくるようであれば、解答の方向性としてよさそうだと分かる。

(3) チェック

解答を作成したら、次の点を意識するとよい。設問 (四) あるいは設問 (五) は、傍線部説明ながら、実際に解答を作ってみると、本文全体の簡潔な要約になっている。自分の答案はそうなっているだろうか。この点を意識しよう。

② 問5の狙いは？

Ans. (1) 「だから」と (2) 「利己主義」vs「利他主義」

③ だから

Ans. 傍線部説明問題は、まずは傍線部以外の要素に着目するのであった。この定石通り、傍線部直前の「だから」に着目できたか。

さて、この「だから」は、直前の「われわれが守らなければならないのは、人類の生存を可能にしている地球環境条件である」を受けている。

しかし、では、なぜこのように言えるのだろうか。それは、これまでの設問で答えたことを含む、文章全体を踏まえた議論となるだろう。

以上から、なぜ下線部 (オ) のようなことが言えるのかということを説明しようとすれば、本文全体に言及しなければならないことが分かる。この時点で、設問 (五) のタイプの問題へのアプローチとしては正しいと推測できるわけである。

完成した解答は、おそらく、文章全体の的確な要約となっているはずである。

④ 環境問題に関する利己主義と利他主義

Ans. 54 行目の「利他的」という言葉に着目できたか。類似語や反義語は必ずマークする癖をつけておこう。

その上で、53～54 行目を呼んでみると、「利他主義」と「利己主義」が対比されていることが分かる。

一般に、何かを説明するときに「ずばりこれこれのことだ」とストレートに説明できることは少ない。何かと対比したり、何かとの差異を通じて説明することが多い。この本文も「環境」という言葉を、後者のアプローチで説明していたことを思い出そう。

以上の大枠を踏まえつつ、傍線部の分析に移ろう。

ポイント 「理由」と「対比」← 二大頻出ポイント！！

⑤ 構文

Ans. 「われわれの努力を根本的に動機づけるのは」「人類の利己主義であり」「そのことの自覚がまず必要である」

⑥ 「われわれの努力を根本的に動機づけるのは」とは、分かりやすく言うとうどういうことか。

Ans. 「動機」は「モチベーション」のことだから、要は、「どういう心構えで環境を守ろうするべきなのか」ということである。「環境保護の努力を行う上での原動力となる考え方は、どうあるべきなのか」ということを話題にしているのである。

次に「根本的に」であるが、「根本」とは「根っこ」のこと。つまり筆者は、「根本的」という言葉を使うことで「本質」を語っている訳である。「環境保護をするならこういう考え方が根本にあるべきですよ」「こうしないとうまくいきませんよ」と言っているわけである。

以上から、この箇所は「どういう動機で環境保護を行うのが理想なのか」ということを意味していることが分かる。

⑦ 「人類の利己主義であり」とは、具体的にどのような意味か。

Ans. 「利己主義」は、48 行目の「だから」というディスコースマーカーに着目できたか。「…生態系とは、実は人間の生存にとって都合な、生態系の特定の状態に他ならないのである」は最大のヒントとなる。「他ならない」という強調の文末表現も参考になる。

また、51 行目の「だから」にも着目できたか。「保護されるべきは人間が健康に生存することができる環境である。だから、環境保護とは第一義的には人間のためのものである」という言い換えも参考になる。

さて、これらをまとめてもよいが、本文全体を読んでいれば、「利己主義」とは設問（二）でまとめた内容であることにも気がつくだろう。字数が限られているので、問二の解答を簡潔にまとめれば、うまくいくだろう。

⑧ 問2解答

Ans. 自然そのものには、どの状態の自然を守るべしとする価値は含まれておらず、人間が生存しやすいように人間の手を加えることで、自然は保護すべきものとなるということ。

⑨ 「そのことの自覚がまず必要である」

Ans. 「必要」という言葉が出てきたら、まず「何に」「必要なのか」ということを考えよう。これは文脈からして、「環境保護を成功させるには」ということであろう。

⑩ 「利他主義ではなく利己主義が環境保護を成功させる理由」

Ans. 次に、なぜ「環境保護を成功させるためには」「利己主義が必要なのか」を考えよう。そこで、この文章のスタートラインを考えてほしい。3 行目にあるように、「環境保護」ということで何を意味しているかということによって、実践上の意味が変わってくるということであった。

さて、「環境保護ということで利他的なことを意味している」とするならば、実践上どういう差異が出てくるのだろうか。53 行目に、…「地球を救え」とか「自然に優しく」といった環境保護運動のスローガンは不適切である、とあるから、どう不適切なのか、具体化すればよいが、これはやや難しい。

54 行目の「人類が減びても、地球や自然はなんらかの形で存続しうるであろう」という文や傍線部（ウ）がヒントになる。要は、「環境保護運動がうまくいかない、効果的に行われない」、もっと言えば、「それどころか人類の存在自体を危うくしかねない」ということだろう。「そんなことやってい

たら、人類は滅びてしまうぞ」という、筆者の危機感を感じ取れたか。

それはなぜか。そこで言われる「環境」という言葉の意味が曖昧だからだ。保護すべき対象が明確に決まらなければ、環境保護がうまく行くはずはない。要するに、「利他主義の立場を取ってしまうと、保護すべき環境の意味が抽象的で明確でなくなる。そのため、環境保護運動も実効性を失う」ということなのである。

しかるに、下線部直前に「われわれが守らなければならないのは、人類の生存を可能にしている地球環境条件である」とあることから、運動の実効性が失われれば、人類の生存が不可能になる、つまり人類の生存も危うくなる、ということすら帰結する。ここが模範解答の「人類の生存自体を危うくしかねない」に対応している。

要するに、「地球を救え」や「自然にやさしく」という言い方は、耳障りのいい言葉だが、その実、保護対象たる「環境」の意味が曖昧なため、具体的な環境保護運動ができず、実効性を欠いた、偽善的なものとならざるをえないということが含意されているわけである。

それに対して、利己主義的なアプローチでは、守るべき環境は「人間が健康に生存することができる環境」であり、保護対象は明確であるから、具体的な環境保護運動が可能になる。このスタートラインを決めようじゃないか、ということが筆者の主張である。

11 ポイント

Ans. 逆説的な物言い。「人類の利己主義」という逆説的な言い方。

具体例

Ans. 『無作法紳士』吉行淳之介

具体例

Ans. 『不道德教育講座』三島由紀夫

解答

元来価値の内在しない地球環境だが、人類が快適に生存できる状態に守るべき価値は設定され、そのため
の環境保護運動が展開できる。しかし、地球環境のため利他的に努力しようとするとき保護の対象は明確
にならず、かつ人類の生存自体を危うくしかねないから。(120 字) (鉄緑会)

解答

解答

【採点基準】

15 点

- (1) 環境保護運動の動機の発生について 【9 点】
- ① 人間が快適に生存できる状況を (6 点)、守るべき価値があると設定する (2 点)
 - ② その守るべき状態に対して、保護運動が展開できるようになる (1 点)
- (2) 「自覚」の必要性 【6 点】
- ③ 利己主義に対して「利他的」な保護運動とは抽象的である。どのような保護運動を展開すれば良いのか不明である。(1 点)

- ④ 人類の生存が危殆に瀕する結果となる。(5点)

【まとめ】

- (1) メモしながら読む
接続詞，のである文，強調表現など，言い換え，類似表現など。→後日配布。
- (2) 段落に小見出しをつけながら読む
- (3) 1度最後まで読んでから，設問を解く。

参考解答

問一 人間を含め、自然界のすべての事物や現象は価値を含まず、自然がいかなる状態・段階にあっても、それらの間に価値の差はないということ。

問二 もともと自然のどの状態や段階でも価値はないが、人間は、自らが改変を加えて生存しやすくした自然の状態に、それを維持すべき価値が設定されるということ。

問三 種の存続に大切な生態系の安定のためには、或る個体を尊重することではなく、個体同士の戦いである弱肉強食を主体とする食物連鎖が必要だから。

問四 全ての現象を単線的な因果関係に集約してしまう自然の概念に比べて、生態系概念は、個体と種、環境相互を有機的な関係性として、多様かつ動的に捉えていること。

問五 元来価値の内在しない地球環境だが、人類が快適に生存できる状態に守るべき価値は設定され、そのための環境保護運動が展開できる。しかし、地球環境のため利他的に努力しようとするとき保護の対象は明確にならず、かつ人類の生存自体を危うくしかねないから。(120字)

問六 a 微妙 b 局地 c 脅 d 維持 e 犠牲